

京都府リハビリテーション教育センターからのお知らせ

京都府内でご勤務医の先生から当センター宛にご質問をいただきましたので共有させていただきます。

【相談窓口への問い合わせ】

今年度から訪問リハビリの3ヶ月毎の診療の担当医として理学療法士の方と院内・訪問での診察を任されましたが、患者さまにどのような内容の声かけ・診察・身体機能の評価を行っていくのがよいのでしょうか。

『お変わりないですか、痛くないですか。』などの声かけしかできず、患者さまの3ヶ月毎の診察のニーズに応えられていない不安があります。声かけ・身体機能の評価など、診察のポイントをご教示いただければ嬉しいです。

【リハビリテーション科専門医からの回答】

20分を想定した場合（各5分）

① Ice break、問診（変化、疼痛部位、前回～今回の近況報告など）

近況報告：事前に訪問リハビリスタッフに聞いておくとも良いかもしれません。

② 身体診察（疼痛部位、膝伸展筋力、その疾患特有の障害部位など）

握力の測定：握力が全身の筋肉量を反映するという文献もあります。

5分

5分

20分

5分

5分

③ 活動の診察

トイレの行き来、階段昇降、庭の散歩、食事・飲水、自主トレチェックなど

④ まとめ

本日の訪問の考察
次回までの目標共有など

ご相談方法

当センターではリハビリテーション診療に関するさまざまな疑問にお答えしますので、お気軽にご相談ください。

①お名前 ②所属 ③役職 ④ご相談内容をご記載ください

rehabili@pref.kyoto.lg.jp

